

中央図書館・郷土博物館及びICT教育に関する要望書

当委員会では、「教育環境の現状と今後の課題について」を年間活動テーマとし、市内の現状を把握するため、令和2年4月1日にリニューアルオープンした中央図書館・郷土博物館及びGIGAスクール構想によってバージョンアップしたICT教育について視察を実施した。

中央図書館・郷土博物館については、リニューアルオープンに伴い、中央図書館は指定管理による運営となり、託児サービスや市内福祉団体による軽食の販売が行われるなど市民が利用しやすい施設となるよう新たな取組が実施されている。

ICT教育については、1人1台のパソコン端末と高速大容量の通信ネットワークが一体的に整備されたGIGAスクール構想により、パソコン端末が学びの文房具となり、学習データを基にした自立的な学びや子供たち同士でデータを共有した協働的な学びが進められているなど先進的な取組が実施されている。

しかしながら、それぞれ先進的な取組が行われている中でも改善すべき点もあると考える。

については、教育環境のさらなる向上に向けて取り組まれるよう、下記の項目のとおり要望する。

記

【中央図書館・郷土博物館】

- 1 図書館の託児サービスは、現在週1回と少ない状況であることから、利用者の声を聞きながら、日数や時間を増やすなど、子育て世代がより気軽に図書館を利用しやすくなるよう検討すること。
- 2 平成27年1月に当委員会から提言した『また来たいと思わせる図書館に向けての提言書』の内容（例：分かりやすい館内案内、館内外の照明の充実、1階玄関ホールを人が集うコミュニティの場として活用する等）がまだ生かされていないところもあることから、内容を再確認し、指定管理者のノウハウを生かしながら、「また来たい」と思ってもらえる図書館づくりに努めること。
- 3 郷土博物館は、視覚障害者への音声案内の導入など、少数派のニーズにも配慮した施設運営を検討すること。

【ICT教育】

- 1 先生の話聞くことや児童・生徒同士の会話など、対面でのコミュニケーションは大変重要であることから、パソコン端末を活用しつつも、お互いが向き合う授業との両立が図られるよう研究すること。
- 2 他自治体でチャットによるいじめ問題が報道されたが、パソコン端末の活用に当たっては、学校と家庭が連携しながら、児童・生徒が情報モラルを身に付け、自ら考え適切に行動できるよう指導に努めること。

中央図書館・郷土博物館 及び ICT教育

中央図書館・郷土博物館

中央図書館・郷土博物館は令和2年4月1日にリニューアルオープンした。

中央図書館は指定管理による運営が始まり、託児サービスや市内福祉団体による軽食の販売が開催されている。

当委員会からは、平成27年1月に「また来たいと思わせる図書館に向けての提言書」を提出している。提言から7年が経過し、イベントの開催や軽食の販売など実現している内容もあるが、サイン表示の統一感がなかったり、明るい雰囲気を感じにくいなど「また来たいと思わせる図書館」にはまだ改善の余地があると考えます。

また、指定管理になり、毎週木曜日の午前中に託児サービスが行われているが、週1回の限られた時間では少なく、子育て世帯が利用しやすい環境となるには検討の余地がある。

再度、提言の内容を見直し、指定管理者のノウハウを生かし、さらなる改善が期待される。



中央図書館の読み聞かせコーナー



郷土博物館の歴史ある展示物

郷土博物館は、リニューアル後、初公開の展示物も披露され、戸田市の歴史をより感じられる施設となっている。利用に当たっては、視覚障害者への音声案内などがないことから、今後は誰もが利用しやすい施設となるようさらなる改善が期待される。

ICT教育

1人1台のパソコン端末（小学3年生～）があることで、より多様な学びが実現している。視察時は、それぞれの俳句の作品をオンライン上で共有し、評価し合う授業が行われており、児童が自分の考えや思いを積極的に表現している様子がうかがえた。

パソコン端末は効率的に学ぶことができる一方で、パソコン端末に向き合うことで、先生の話聞く姿勢や児童同士の会話など、直接向き合うコミュニケーション面での不安がないか心配される。パソコン端末を活用しつつも、お互いが向き合う授業との両立が求められる。また、学校と家庭が連携し、児童生徒が情報モラルを身に付け、自ら考え適切に正しく行動できる指導が求められる。



戸田第二小学校のパソコン端末を使用した授業

令和4年1月 戸田市議会 文教・建設常任委員会

委員長	石川 清明
副委員長	佐藤 太信
委員	スーパークレイジー君
委員	宮内 そうこ
委員	山崎 雅俊
委員	本田 哲
委員	細田 昌孝